

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

住民サービス施設3施設が竣工

2012年12月5日付『朝鮮新報』オンライン版によれば、2012年11月3日に各種浴場にサウナ、理・美容室、食堂などが備わった総合リラクゼーション施設である柳京院、人民屋外アイススケート場、そしてローラースケート場が、大同江のほとりに竣工した。

平壤で音声認識型の携帯電話機が人気

2012年12月11日付『朝鮮新報』オンライン版によれば、平壤で最近、音声認識機能が搭載された携帯電話端末が若者たちの間で人気を呼んでいるとのこと。北朝鮮では、古い携帯端末を買い取り新型の携帯端末を割引価格で販売するサービスが行われており、新しい端末を購入する市民らが増えているという。若者たちは端末を選ぶ際に、機能性やデザイン性を重視する傾向が強いという。

朝鮮労働党中央委員会が北朝鮮の人工衛星打ち上げ成功の祝賀宴開催

2012年12月25日付『朝鮮新報』オンライン版によれば、同月21日、朝鮮労働党中央委員会が人工衛星「光明星3」号2号機の打ち上げ成功に貢献した科学者、技術者、労働者、幹部のために、平壤の木蘭館で祝賀宴を催した。

祝賀宴には、金正恩第1書記が李雪主夫人と共に参席した。金正恩第1書記は演説で「さらに、宇宙を征服するために、通信衛星をはじめさまざまな実用衛星とより威力ある運搬ロケットをより多く開発し打ち上げなければならないと強調した」。

「新年の辞」

2013年1月1日朝9時過ぎから、朝鮮中央テレビで、金正恩朝鮮労働党第1書記による「新年の辞」の放送があった。金日成時代以来、19年ぶりの復活となる「新年の辞」は、最高指導者が直接国民に語りかけるその年の施政方針である。金正日時代には「新年の辞」の代わりに、朝鮮労働党機関紙『労働新聞』、朝鮮人民軍機関紙『朝鮮人民軍』、金日成社会主義青年同盟機関紙『青年前衛』3紙の共同社説が1月1日に発表されていた。金日成時代の「新年の辞」は1時間を超える場合もあったが、今回の新年の辞の放送時間は、23分ほどであった。

今年の新年の辞のスローガンは、「宇宙を征服したその精神、その気迫で経済強国建設の転換的な局面を切り開いていこう！」である。

昨年の評価については、新年の辞では、「金日成主席と金正日総書記を朝鮮革命の永遠なる領袖として高く戴き、

党の指導のもとにチュチェの革命偉業を立派に継承し達成することのできる確固たる保障をもたらした歴史的な年」と規定されている。昨年の成果としては、「金日成主席生誕100周年慶祝閱兵式を通じて、思想と信念が徹底しており、いかなる強敵をも打ち負かすことのできる朝鮮式の近代的武力装備を備えた軍の強大な威力を示威し、敵の絶え間ない戦争挑発策動と反共和国謀略騒動をことごとく粉砕し、祖国の安全を確固と守り抜いた」とし、2012年4月15日の軍事パレードで公開された大陸間弾道弾の開発により、抑止力がさらに高まったとの認識を示した。また、「人工衛星『光明星3』号2号機の打ち上げを成功させて総書記の遺訓を立派に実現し、朝鮮の宇宙科学技術と総合的国力を力強く誇示した」とロケットの打ち上げは、軍事目的というよりは、総合的な科学技術振興の側面が強いことを示唆した。北朝鮮が科学技術立国を目指すとするれば、今後もその技術力の向上を実用衛星の打ち上げという形で国内外に見せる必要がある。今後北朝鮮は、宇宙の平和的利用という名目で、ロケットの打ち上げと衛星の軌道投入、実用衛星の製作など宇宙技術の強化を継続する可能性が高く、日米韓をはじめとして、周辺国との摩擦が続くおそれがある。

金正日時代に多く出た「先軍」という表現は、今年の新年の辞においても先軍朝鮮、先軍革命、先軍の旗、先軍の道、先軍文化などの形で出てきたが、その頻度は減少した。

今年の最重要政策は経済建設、特に国民生活の向上である。新年の辞では「こんにち、経済強国の建設は社会主義強盛国家建設偉業の達成において第一義的に提起される最も重要な課題だ」「経済建設の成果は人民の生活に現れなければならない」「農業と軽工業は依然として今年、経済建設の主要部門だ」など、国民生活に直結した部門の振興が重要な課題としてうたわれている。経済管理の改善、すなわち経済改革に関連しては「われわれは朝鮮式の社会主義経済制度を固守し、勤労人民大衆が生産活動において主人としての責任と役割を果たすようにする原則で経済管理方法を絶えず改善、完成し、各単位で創造されたよい経験を広く一般化するようにしなければならない」としており、まだ模範となるモデル作りの段階であることを想起させた。

昨年の「共同社説」で始めて出た、「社会主義文明国家」という表現であるが、今年の新年の辞ではこれを「全人民が高い文化知識と健やかな体力、気高い道徳品性を身につけ、最も文化的な条件と環境のもとで社会主義的文化生活を思う存分享受し、全社会に美しく健全な生活気風がみなぎる社会主義の文明国だ」と定義している。

南北関係については、韓国の新政権の発足をひかえ、昨年までとは異なり、南の政権批判を抑え、南北関係改善を予感させるような表現が多く使われている。

(ERINA調査研究部長・主任研究員 三村光弘)